

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	がっこうほうじんひろしまじょがくいん ひろしまじょがくいんちゅうがくこうとうがっこう				②所在都道府県	広島県
26～30	①学校名	学校法人広島女学院 広島女学院中学高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	本校は、全校生徒を対象にSGH事業を実施する。対象とする生徒数は④と同じである。	
	中学校	226	232	235	693		
高校普通科	217	219	209	645			
⑥研究開発構想名	「成長目標の共有を通じた生徒・教員協働による高大連携型グローバル人材育成」						
⑦研究開発の概要	教員集団が成長目標を共有すること、大学と連携して生徒が国内外の他者と出会う場を提供することで生徒が成長する。この2つの軸を組み込んだ平和教育をテーマに課題研究を行い、グローバル人材に不可欠な3つの力＝平和観・対話力・リーダーシップを育成する。これを可能にするため、教員の意識を変え組織を改編する。						
⑧研究開発の内容等	(1) 目的・目標 本構想の目的は「核の惨禍のない世界を創り出す、しなやかな女性」を育成することである。このような人材には「平和観・対話力・リーダーシップ」が必要である。この力をつけるには、中高の教員集団、生徒、連携先の大学が生徒の成長目標を共有すること、 実社会で他者と出会う ことが不可欠である。この2つを軸とした平和教育を課題研究として行う。この学びを促進させるのが、 高大連携 である。広島市立大学・平和研究所とは平和教育のカリキュラムを共同開発する。東京医科歯科大学の学生は、対話力を育成するために生徒とICTを活用して議論し合う。広島女学院大学は、リーダーシップを育成する場として生徒にピースセミナーとサマーセミナーを提供する。このような教育を実現するため、教員の意識を向上させるとともに、教員組織を刷新する。平和観は「自主的に留学又は海外研修に行く生徒数」「将来留学したり仕事で国際的に活躍したいと思う生徒の割合」などで計り、現在の約3倍にする。本校が理想とする人材が育成できているかは「SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合」で検証する。対話力は、「卒業時CEFR B1～B2レベルの生徒の割合」「TOEFL iBTの平均点」「論理文章能力検定 レベル1 1合格者」で検証する。リーダーシップは、自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数」「公的機関から表彰、公益性の高い国内外の大会の入賞者数」「Q-Uのアセスメント結果」で検証する。						
	(2) 現状の分析と研究開発の仮説 本校は、建学以来英語教育・国際教育・平和学習を長年実施してきたが、生徒が期待しているレベルに達していない現実が顕在化した。生徒の課題は、 内向き志向、論理的思考力と主体性の未発達 である。これは、海外への進学・留学者数の減少、模試などにおける文章読解問題でのつまずき、ボランティア活動が延べ人数より実人数がずっと少ないことから明らかである。現状を打開するために必要なことは、 教員集団の成長目標・効果的な指導方法の共有化 と、生徒が実社会で 未知なる価値観と出会い、他者にリアリティをもって平和を考える場を与える ことである。この2つを軸にした教育により、3つの力の成長が大きく促され、グローバル人材が育成できる。本校は、 教員の意識を変え、新たな教員組織へと改編 する。既存の海外派遣事業を変え、 新たなプログラム を立ち上げる。 (3) 成果の普及 本校は、年2回のシンポジウム(8月・2月)、教職員を校外派遣しての講演会(年3回)、運営指導委員会の報告公表(HP上、外国語による公開も含む)、生徒・教職員、保護者へのアンケートによって成果を普及する。						

<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 中1：ヒロシマ・本校の被爆の状況を取り上げて学ぶ。 中2：海外の人々は原爆をどのように見ているのかを学び、韓国で意見交換する。 中3：「核兵器を廃絶すべきか」を議題としたディベートを行う小論文にまとめる。 ミャンマーのJICA事務所を訪れ平和実践の現場を体験する。 高1：背景の異なる人々とともに平和を創る経験を積む。カンボジア、韓国、東北などを訪れ、問題解決のために協力するにはどうすればよいかを学び実践する。 高2：沖縄基地問題に対し、政策提言を行う。沖縄尚学高等学校を訪問し、高校生に校内選抜されたプレゼンテーションをする。 高3 模擬国連形式で「核兵器を廃絶すべきか」を議論する。それをもとに、平和論文を作成し、英文のサマリーをつけ、核の惨禍がない世界をつくるという決意を固める。 海外研修：モントレイ国際大学院(アメリカ)、NPT再検討会議準備委員会、平和首長会議、国連軍縮会議、首都大学東京・渡邊英徳氏の海外フィールドワークに参加する。 本校が主催のPeace Forum</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 課題研究は、高校は毎週金曜7限、中学校毎週木曜6限の総合学習の時間を用いて、年間を通じて実施。27年度からは1時間増を検討中である。学習効果の検証評価は、課題研究における生徒の成果物を吟味し、生徒への各種アンケートの結果などを連携先の大学とともにフィードバックして行う。</p> <p>(2) 必要となる教育課程の特例等 該当なし</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 各学年の課題研究内容と成長目標を教員全体で共有し、教育効果を高める体制を構築する。実施方法は、課題研究の進捗過程に応じて各授業が必要な知識・技能を提供するようカリキュラムを作成して行う。検証は、課題研究につながる各授業の成果物によって行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 該当なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法 ・海外大学進学支援：説明会を行い、生徒・保護者に情報を提供する。 ・グローバル人材育成のためのシンポジウム：生徒・保護者・地域の方への講演を実施する。 ・外国人留学生とのワークショップ：海外トップ大学の学生が本校に短期留学し、英語の授業や課外活動で生徒の意識を海外に開く。</p> <p>(4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入） 該当なし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校では高2の選択科目に2時間連続のプレゼンテーション演習の授業があるが、その中で海外から「ヒロシマ」観光に来た人々を対象とした観光案内ビデオを作成する。生徒は出来た作品をプレゼンし、最終的に旅行代理店トップツアーにより審査され、優秀作品を選ぶ。「ヒロシマ」の何をどのように伝えたらよいか、同級生たちと議論を行なう中で、生徒たちはこれまでの平和学習で学んできた「ヒロシマ」とは異なる一面について新たな発見をする。と同時に、「ヒロシマ」に観光に来た人が何を求めているのか、何を見たら喜ぶのかなど相手の立場に立って考えることの重要性に気づくなど、これまでの学びが発揮される授業となっている。</p>